

# 道

2023・7・5

通信 No 1739



キュウリ

本日の練習 6時30分～（岡野中学音楽室）清水先生 小坂先生

●ロシア民謡メドレー ※「カチューシャは1集 17P」の楽譜に変更してください。

次回7月12日（水）6時30分～（岡野中学音楽室）小坂先生 二宮先生

練習曲 ●鐘の音は単調に鳴り響く ●あなたに会った時 ●くぐり戸

Kino cinema 横浜

みなとみらい

045-264-4572

## ～ キャロル・オブ・ザ・ベル 家族の絆を奏でる詩 ～



7月7日公開のウクライナとポーランドの合作映画「キャロル・オブ・ザ・ベル 家族の絆を奏でる詩」は、第2次世界大戦下でウクライナとポーランド、ユダヤの3家族が支え合って生き抜こうとする物語。オレシヤ・モルグネツ



・イサイエンコ監督は「戦争は究極の悪。他国を力で侵略し、圧倒しようとする」と、必ず悲劇に終わる。犠牲になるのは普通の人間です。今のウクライナがまさにそうです」と訴える。

ウクライナ生まれの監督は、ロシアによるウクライナ侵攻後も首都キーウに家族らととどまり、現

## 幸せはきつと 戦時下の3家族の物語

地からオンラインで朝日新聞のインタビューに応じた。「今もロシアの攻撃は続き、厳しい状況。キスマスソングとして有名なこの曲への思いがあるから。生活ができていないのは家族の愛のおかげです。なぜ、自分たちの家を明け渡さなければいけないのでしょうか」

物語は1939年からスタートする。ポーランド領（当時）でユダヤ人の一家が住む母屋に、ウクライナとポーランドの家族が引っ越してくる。開戦後、ポーランドとユダヤ人の両親は迫害を受け、ウクライナ人の母ソフィアが、ユダヤ人やポーランド人の娘らと必死に守ろうとするが、ナチスの粛清でソフィアの夫は処刑される。逆境のなかでも、いざれ幸せが訪れると信じる気持ちの投影として、劇中で鳴り響くのが「キャロル・オブ・ザ・ベル」だ。ウクライナの民謡をもとに生まれ、クリスマスソングとして有名なこの曲について、監督は「ウクライナ文化と、ウクライナ人の存在の証しです」と強調する。

（細見卓司）

「キャロル・オブ・ザ・ベル」はウクライナの民謡を元にマイコラ・レオンドーヴィッチュが1914年に編曲したシュチエドリックに1936年にウクライナ人作曲家ピーター・J・ウイルウフスキーが英語の歌詞をつけたもの。